



学校園だより

良樹細根

丹波篠山市立
たまま幼稚園
城北畑小学校
1月の2



練習中！！

2月10日（木）の生活発表会に向け、幼稚園では練習と準備に取りかかっています。すすらん組は、オペレッタ、歌、ベル演奏、ひまわり組は、劇あそび、歌、合奏をそれぞれ披露します。園児たちの1年間の成長を保護者や職員としても実感できる行事、それが生活発表会です。年度末のこの行事を通して、子どもたちに達成感を味わわせる、歌や劇等で表現力を育む、友だちとの関わりの中で協働性を育むことを目的としています。この日は、遊戯室でのオペレッタの練習と保育室での小道具づくりに取り組んでいました。仲間と活動を共にする中で、楽しかったことやうまくできたこと、友だちと意見が合わず困ったことや悲しかったこと等、様々な場面がありますが、こうした場面を振り返る話し合いや取組の情報を子ども同士または子どもと教師同士で交換する場の確保は不可欠です。振り返りは、次の活動への意欲に繋がり、目的の共有になります。元気はつらつとした発表会になるよう、これからもコツコツと進めていきます。（10日を28日に延期します）



とろとろえのぐでかく

2年生の図画工作の時間。紙皿に液体粘土を入れ、その粘土の中に

絵具を少量たらした後、指先で混ぜ合わせ、画用紙の上で指先や手のひらを使って模様などを描きました。絵具を混ぜた液体粘土に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すというのが目的です。子どもたちは、手や指で描いて感じたこと、想像したこと、表したいことを見つけ、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら取り組んでいました。絵筆を使わず絵を描く経験が少なかったせいもあり「これ、おもしろい！」「なんか、ぐにゅぐにゅしてる！」「すべすべな感じ。」「指先がつるつると、滑っていく感じ。」「筆やったらシャーシャーと描けるけど・・・」などと言いながら、思い描いた絵を表現しました。お花畑、稲妻、富士山と日の出、雨模様、お月見、海、草原、車、犬等々、思い思いのイメージを表現していました。液体粘土という新たな材料に触れ、指や手で描くことを楽しみ、そこから新たな発見をする活動を通して、今まで触れたことのないものにも進んで関わろうとする冒険心やそれを楽しむ気持ちを持ってほしいと思います。



（黒い画用紙に描いた魚とイカ）



カラチャレドリル

体育の時間に、主に低学年・中学年がこのドリルを使って学習しています。このドリルは、全国の小学校で

必修になっている「体づくり運動（体づくりの運動遊び）」で行う運動が80種類以上掲載された無償の体育ドリルです。子どもたちが自ら進んで運動に取り組み、すべての子に運動を通じた「できた」の経験を味わえることを願って制作されたものです。低学年に特化した体育ドリルですが、本校では中学年もこのドリルを活用しています。内容は、①フラミンゴステージ（体のバランスをとる運動遊び）②ライオンステージ（体を移動する運動遊び）③サルステージ（用具を操作する運動遊び）④ネ

コステージ（体ほぐしの運動遊び）の5つのステージに分かれて掲載されています。具体的には、ケンケンしながら、相手のバランスを崩したり、相手にバランスを崩されないようにする「ケンケンすもう」、背中を丸めず、頭から足のつま先までが一直線になるようにしながら制止する「飛行機」、動物（ワニ、カエル等々）になって自由に動き回る「動物変身」、いろんな姿勢でボールを体の周りで回す「ボール回し」、長縄を回し当らないようにくぐりぬけたりする「ながなわ遊び」、しゃがんだ姿勢で歩く「いもむし歩き」等々、たくさんの遊びがあります。1年生が校長室にやってきて、動きを紹介してくれます。できたらシールを貼ります。楽しみながら取り組んでいる様子が分かります。このように様々な動きを取り入れることで、バランス感覚やボディイメージを身につけていきます。園でも芝生の上で思い切り遊ぶことで体幹を鍛えようと意識しています。

祭りばやしに親しむ！



「進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う」これは、中学年で音楽を通して育成する目標の一つです。3年生の学習は鑑賞でした。日本各地に伝わる地域の祭りは数えきれないほどあります。この日は、京都の「祇園囃子」と青森県の「ねぶた囃子」の2つのお囃子の雰囲気、映像を通して比較鑑賞しました。音色、リズム感（拍）、速度、変化、掛け声、楽器、お囃子の雰囲気等々、違いを発表しました。学習の後半は、身体表現しながら祭りの雰囲気を表現しました。実際に使われている、かね、たいこ、笛があればよいのですが、そこは子どもたちが手拍子したり、掛け声をかけたり、机をたたいて音を出したりするなど、工夫しました。

「対話的な学び」が子どもの学習にとって大切と言われます。その通りですが、音楽科にとって「対話」とは、音や音楽、言葉によるコミュニケーションです。言語だけでなく、音や音楽と一体的に対話することに、音楽の学びのよさがあります。1つのうたをみんなで声を合わせて歌うことや、1つの曲を様々な楽器を使ってみんなで合奏し合う、クラスの一体感が味わえる心地よい時間が流れます。音楽のよさはそこにもあると思っています・・・。



令和4年度前期児童会役員立候補者による演説会！この日は2年生教室で立候補者が意志を表明しました。5年生から4人、4年生から7人が立候補しています。中には、緊張して給食の量が減ったという児童もいます。何事も経験。経験が自分を大きくしてくれます！特に4年生は初めての経験ですが、7人もチャレンジしているのは立派です。